様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年　　5 月　　31 日現在

機関番号：32620
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012
課題番号：22592617
研究課題名（和文）　修正版在宅療養移行時アセスメントシートの有用性

研究課題名（英文）　Efficiency of “Assessment Sheet” of patients at transit period before and after leaving hospital.

研究代表者
樋口　キエ子　（HIGUCHI　KIEKO　）
順天堂大学・医療看護学部
研究者番号：60320636

研究成果の概要（和文）：
退院後の継続看護の充実を目的に作成したツール（修正版在宅療養移行時アセスメントシート(シート)）について病院看護師と退院後の患者を担当する訪問看護師に使用前・後の調査をした。その結果、①看護師によるシートの使用前・後の比較では、多くの項目に有意差が認められた。②シートの使用前・後を評価するために作成した評価票の妥当性・信頼性が検証された。以上より、本シートは継続看護のツールとして概ね有用性が検証された。

研究成果の概要（英文）：
For a purpose to develop a continuous nursing after patient’s leaving the hospital, I tried to compare situations of nursing activities between with and without “Assessment Sheet” created in this study, and also tried to make the efficiency clear to utilize this Assessment Sheet.
In this study, Assessment Sheets were reported by hospital nurses and visiting nurses outside hospital during their nursing activity. Nurses recorded their patient’s situation during transit period before and after leaving hospital.
As a result, I came to recognize a distinct efficiency of Assessment Sheet in nursing activity to confirm aspects below;
1) There are a lot of differences found between the nursing activities with and without Assessment Sheet
2) It shows a high validity of this study through a systematic evaluation process of Assessment Sheets and reliable collected data.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総　計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：在宅看護学
科研費の分科・細目：地域・老年看護学
キーワード：在宅移行、継続看護、アセスメントシート、継続する課題

１．研究開始当初の背景

診療報酬改定で平均在院日数短縮により医療依存度の高い療養者の在宅への移行

など訪問看護の適用者は増加しており、継続看護のあり方が退院後の生活に影響している。しかし、退院させる側の病院看護職の課題として①退院支援の必要性はわかるが具体的な連携方法がわからない、②介護保険制度や特定疾病の適用等、社会資源に関する活用方法の不足、③退院後の生活のイメージ化不足などがあり、在宅移行を円滑にするツールの必要性が指摘された。加えて、退院後、医療処置を担う介護者の困難要因の対策として継続ケアに関するツールの必要性が示唆された。本シートは、在宅移行が円滑に進み、継続看護の充実化を図ることを目的に、退院させる側で準備・連絡・調整する事柄を明示した記録用紙で、退院支援の１ツールである。平成 16 年 T 県看護協会訪問看護委員会で申請者らが開発、プレテストによる有用性の検証を経て県内99箇所の病院450部の実際の患者例にアセスメントの記載を依頼した。この結果、①継続する医療処置、ADL に問題のある患者の訪問看護への継続②訪問看護が役割とする内容を退院後の課題として抽出できることが明らかになり有用性が評価された。平成19年には、「家族支援の充実化」を目指し実際の患者例に修正版の試用をした。その結果、医療的ケアを担う家族の退院支援計画に役立つ・家族への関心が高まる（相関係数 0.548）と評価があり、病院看護師の継続看護・家族看護への意識化に有用であった。申請者らは先述のようにツールの精度を高めるために修正を繰り返してきた。しかし、患者の退院は、多職種との連携の基に行われること、これまでの申請者らの研究は、横断的研究によるものであり、本シートの目的達成や実用可能性を明らかにするためには、縦断的研究が求められる。

そこで、今回は、保健医療福祉チームによる退院支援も視野に入れ「訪問看護の必要な患者を訪問看護に確実に繋ぐ項目」「医師、他職種の意見欄」を挿入した修正版のアセスメントツールを作成し、実際の患者例に試用、退院後の同患者とその家族および訪問看護師から評価を得る。これらの縦断的調査により、シートの精度を図り実用化を目指す。

２．研究の目的

平成 22-23 年度内に修正版在宅移行時のアセスメントシートの有用性を検証し、次年度は、実用化に向けた小冊子を作成、ホームページで閲覧できるようにする。

＜22-23 年＞:「修正版シート」の調査準備、本シートの使用と評価

・退院患者への病院看護職による本シート使用と評価、退院後 1、6 ヶ月における同患者家族と訪問看護師の調査

＜24 年度＞:「修正版シート」「ガイドライン」の完成・実用化に向けた作業、看護医療福祉職関係者への啓蒙活動、研修会、学会報告、小冊子の作成、ホームページ掲載。

３．研究の方法

＜第一段階　アセスメントシートの作成＞

1.継続看護のシート（ツール）（平成 22 年時点）を収集し、在宅移行時のツールの構成要素・項目の分析(資料表１）作成は以下の方法で実施する。

1)先行研究を参考にする　―　・訪問看護師の退院支援力　・退院患者ニーズ調査

・訪問看護師が認識する在宅移行時における連携の円滑化と困難に関する研究他

２)視察によるツールの実態把握

・対象施設は、退院支援がシステム化され、円滑に機能している 3 病院、内 1 施設は退院調整看護師と病棟同行訪問を行い、在宅移行時のツールの実態を把握した

２．1),2）を踏まえ、従来のアセスメントシートの項目の見直しを行いアセスメントシート案の作成

3)病院看護師による 使用とその評価のプレテストを実施した（4 回）

＜第二段階　アセスメントシート使用前後の有用性を検証する評価票の作成＞

アセスメントシート使用前と使用後評価票の項目の構成は先行研究を参考に作成した

・筆者らが作成した従来の使用後評価票

・訪問看護師の退院支援力

・退院患者ニーズ調査他

＜第三段階　アセスメントシートの有用性検証のデータ収集＞

1)病院看護師による退院患者のアセスメントシートの記入実態

2)病院および訪問看護師によるアセスメントシート使用前・後の評価票による評価

3)2)の中から一部の病院および訪問看護師によるアセスメントシートのグループ面接による評価

４．研究成果

A～D の調査を実施した。

A:作成したアセスメントシートの記入実態

1)研究対象・方法は、以下の通りである。S 県内 100 床以上の病院で調査に同意が得られた 14 施設の看護職を協力者とした。協力者に病院退院後、訪問看護を利用する患者に一定期間アセスメントシートの活用をして頂いた。退院後利用する訪問看護ステーションに記入後のアセスメントシートを届け、活用して頂く。

2)調査内容:作成したシートの記入、A3 版、見開き。

3)調査期間：平成 24 年 3 月～6 月下旬。

4)結果：アセスメントシートの記入実態より、継続する課題のアセスメントによる継続課題の明確化を図り、継続看護に繋げるという本シートに期待される方向性は示唆された。課題は継続課題をタイムリーに継続先に繋ぐ方法のシステム化である。

B:病院および訪問看護師によるアセスメントシート使用前・後の評価票による評価

1)調査対象・方法：A と同じおよび退院後担当する訪問看護師

シート使用後の評価票を用いてシート使用前と後の評価を実施する。

2）結果

（1）前後比較

病棟看護師の評価では【対象の生活像が把握できる p=0.012】【家族への処置の指導が適切に行われている p=0.0009】【看護職間の連携ができる p=0.0065】など多くの項目において、有意に差が認められた。

訪問看護師の評価では、【基礎情報から対象に関わる保健医療福祉資源が把握できる p=0.43】【療養者の基本動作について継続内容が明確にできる p=0.0486】以外は、有意な差は認められなかった。

（2）調査協力者からのご意見

病棟看護師から、「このシートを使用してみて自分たちの医療連携の薄さを実感できた」「このシートを早く使いたかった」というご意見を頂いた。

訪問看護師からの意見として、「患者が在宅療養を開始する前あるいは同時にこのシートが病院から届いていればこのシートがもっと活用できるが、後から送られてくるので連携につながらない」というご意見を頂いた。

病棟看護師の評価では、多くの項目において有意に差が認められ、本シートが在宅療養移行の際のケアの継続に有用であることが明らかになった。

C.修正版在宅療養移行時アセスメントシー

ト評価尺度の信頼性・妥当性の検

1)対象・研究方法.内容：S 県内 100 床以上の病院で調査に同意が得られた 14 施設のシート使用後評価を行った病棟看護師および訪問看護師 69 名。

(1)評価尺度 36 項目 6 段階評定【内容】・継続ができるか→本人・家族の意向把握できたか→生活像、全体像、保健医療福祉資源、家族情報

・連携ができたか→医療従事者間継続内容が明確にできたか→緊急時の受け入れ体制、療養者の基本動作、自己管理、医療処置管理、住居環境、家族指導の方向性、調整会議、退院準備、社会保障制度、看護の役割、社会資源の活用

・情報の活用および役立ったか→訪問看護ステーションに関する情報、退院支援アセスメント力向上

・システム化ができたか→退院支援

・イメージ化ができたか→退院後の生活実感がもてたか→チームでケアをすること

(2)分析方法は因子分析の最尤法バリマックス回転にて検討した。α係数を算出し信頼性を検討した。

2)結果考察：累積寄与率 73.448%で、5 因子抽出された。第 1 因子は、「在宅移行に向けての準備・調整」、第 2 因子は、「療養継続のための社会資源と看護職の役割の明確化」、第 3 因子は、「他職種連携と継続課題の明確化」、第 4 因子は、「退院後の医療処置管理システム化と家族支援」、第 5 因子は、「対象の生活・全体像の把握」と命名した。α 係数は、0.939～0.984 で内的整合性が得られた。構成概念妥当性・信頼性が検証された。在宅療養移行時に必要なアセスメント評価の因子は 5 つの因子で構成された。在宅移行に向けて、本人・家族の意向を大切にして、看護師間連携を図り、退院調整会議を行い、衛生材料・器具・書類の準備などを行うことが、まず第 1 に行うべき支援であることが示唆された。

D. シートを使用した8施設の病棟と訪問看護師による面接での評価。

本シート使用により、1)継続が必要な課題の明確化により、在宅移行時における病院・地域看護職間引き継ぎの円滑化と継続看護の充実に繋がる 2)継続する課題を明確にするプロセスにおいて病院看護師の退院後生活のイメージ化の促進 3)退院支援が計画的に進められる等、本シートを縦断的に使用することの有用性が概ね示唆された。課題は、シートをタイムリーに継続先へ繋ぐシステムの工夫、シートを利用して退院した患者が利用する訪問間ステーション看護師を対象とした在宅生活への影響について調査をする予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）

<u>高橋 フミエ、樋口キエ子</u>：在宅療養移行への看護のアセスメントシートに関する研究 一般病院とがん拠点病院の比較、東都医療大学紀要、査読有り 2 巻（1）、2012、1-7

〔学会発表〕（計６件）

① <u>樋口キエ子，小竹久実子、高橋フミエ</u>：第37回日本看護研究学会、在宅療養移行への看護アセスメントシートに関する研究　一般開放型とがん拠点病院の比較、2011年8月4日、横浜パシフィッコ（神奈川県）

② <u>樋口キエ子，小竹久実子、高橋フミエ、大園康文</u>他：38回日本看護研究学会学、修正版在宅療養移行時アセスメントシートから見えた「継続が必要な課題」、2012年7月9日、沖縄コンベンションセンター（沖縄県）

③ 大園康文、樋口キエ子，高橋フミエ・小竹久実子:第 43 回看護学会成人看護学会、修正版在宅療養移行時アセスメントシートの有用性-評価表のプレテストより-2012 年 10 月 5 日、茨城県立文化会館(茨城県)

④ 樋口キエ子，大園康文・小竹久実子，高橋フミエ:第 18 回日本在宅ケア学会学術集会、修正版在宅療養移行時アセスメントシートの有用性-シート記入実態-2012 年 3 月 10 日、茨城県民文化センター（茨城県）

⑤ 大園康文、樋口キエ子，高橋フミエ・小竹久実子:第 18 回日本在宅ケア学会学術集会、修正版在宅療養移行時アセスメントシートの有用性-使用前後の評価より-、2012 年 3 月 10 日、茨城県民文化センター（茨城県）

⑥ 小竹久実子・樋口キエ子，大園康文，高橋フミエ:第 18 回日本在宅ケア学会学術集会、有用性評価表の妥当性信頼性の検討より、2012 年 3 月 10 日、茨城県民文化センター（茨城県）

６．研究組織

(1)研究代表者

樋口　キエ子　（HIGUCHI　KIEKO　）
順天堂大学・医療看護学部・先任准教授
研究者番号：60320636

(2)研究分担者

小竹久実子　（KOTAKE　KUMIKO　　）

順天堂大学・医療看護学部・准教授
研究者番号：90320639

大園康文　（HOSONO　YASUFUMI）
順天堂大学・医療看護学部・助教
研究者番号：80615518

(3)連携研究者

高橋フミエ（TASKAHASI　FUMIE　　）
前　東都保健医療大学・教授
研究者番号：30320633